

2-1

Azure ADを使用してAzureソリューションをセキュリティで保護する

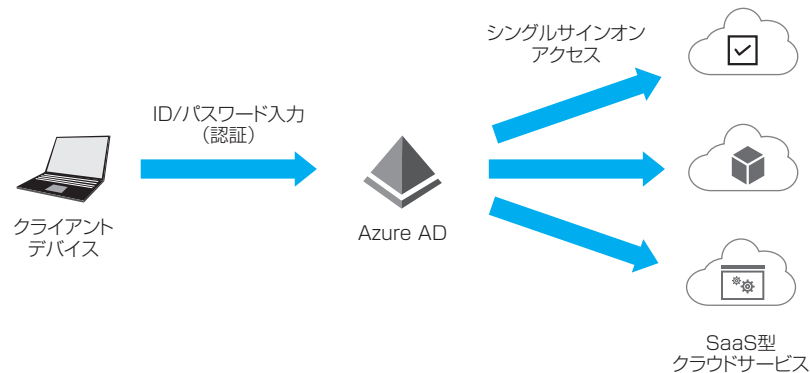
この節ではMicrosoft Azureのサービスを利用するために必要な認証・認可に関わるサービスであるAzure Active Directoryについて学習します。

1 Azure Active Directoryの概要

近年、私たちは業務でクラウドサービスを利用する機会が多くなりました。どのクラウドサービスを利用する場合でもIDとパスワードを入力する操作は必ず行わなければならない、わずらわしさが課題になっていました。

Azure Active Directory (以降、Azure AD) はID/パスワードの入力が必要なクラウドサービスに対するシングルサインオンのサービスを提供します。**シングルサインオン** (SSO) とは、一度ID/パスワードを入力するだけでどこでもアクセスできるようになるサービスです。Azure ADにアクセスするときにはID/パスワードを一度入力するだけです。どのクラウドサービスにアクセスするときも、改めてID/パスワードを入力する必要がなくなるメリットがあります。

▼シングルサインオン

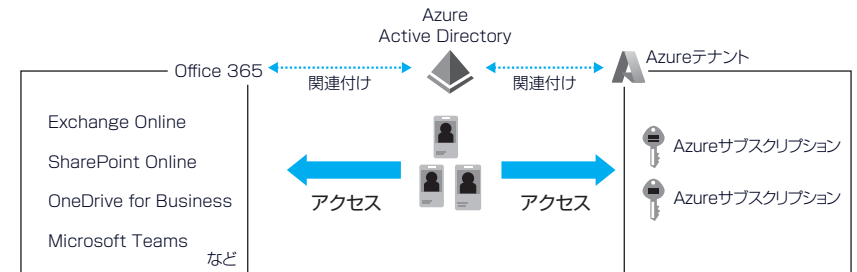


クライアントデバイスはAzure ADでのみ認証を行えば、その他のクラウドサービスにシングルサインオンアクセスができる。

クラウドサービスへのアクセスをSSO化させる場合、あらかじめIT管理者がクラウドサービスとAzure ADとの間で関連付け設定を行っておきます。現在、Azure ADと関連付けが可能なクラウドサービスにはGoogle Workspace、Salesforce、boxなど3000種類以上のSaaS型クラウドサービスの他、自社開発のWebアプリケーションに代表されるPaaS型のクラウドサービス、さらには社内で作動しているWebサーバーなどがあります。

一方、マイクロソフトのクラウドサービスは、既定で認証基盤としてAzure ADを利用するため、Office 365やMicrosoft Azureを契約することによって自動的にAzure ADが作られ、これらのクラウドサービスと関連付けられます。

▼Microsoft AzureテナントとAzure ADの関連付けの関係



Microsoft AzureとOffice 365は契約時に自動的にAzure ADが作られ、関連付けされる。そのため、Azure ADユーザーはMicrosoft AzureやOffice 365にアクセスできる。

2 Azure Active Directoryのライセンス

Azure ADを利用してSSOを実現する場合、Azure ADにアクセスするためのユーザーを作成したり、関連付けられたクラウドサービスにアクセスするためのアクセス許可を設定したり、不正アクセスがないかを監視したりと行うべき作業はさまざまです。こうした機能をAzure ADで実現する場合、どのようなライセンスを所有しているかによって実現できる機能が異なります。Azure ADには無償で利用可能な**Azure AD Free**の他、Office 365を契約することで自動的に利用可能になるライセンス、また別途有償契約が必要なライセンスである**Azure AD Premium P1**と**Azure AD Premium P2**があります。それぞれのライセンスで利用可能な主な機能は、以下の通りです。